

ガイドステラスシアター：山伏文化と火山景観

磐梯朝日国立公園の山は、長年にわたり、修験道と呼ばれる山岳修行の修験者にとって重要でした。この信仰は、奈良時代（710年-794年）に出現し、神道の山岳信仰と仏教と地元の民間信仰の要素と修行を混ぜ合わせたものです。

山形県の出羽三山（霊山）や、山形県、新潟県、福島県をまたぐ飯豊連峰や、福島県にある磐梯山、吾妻小富士、安達太良山の成層火山など、磐梯朝日国立公園を構成している連峰のいたるところに数多くの祈祷の場所があります。山の中を曲がりくねって進む磐梯吾妻スカイラインなどの道から、修験道の修験者（山伏）を惹き付けてきた山峰の目を見張るような眺めを楽しむことができます。

修験道は、人間と自然との間の相互連結を強調するものです。出羽三山（霊山）周辺にある重要な神聖地には、羽黒山五重塔や湯殿山神社などが含まれます。12月31日に羽黒山で行われる毎年恒例の松例祭では、藁でできた悪魔の人形に儀式の火入れを行うところを見ることができます。